子規が親しんだ短歌形式の手紙　第15回 はがき歌 全国コンテスト

1万2499通りの思い伝わります

正岡子規が日常の出来事を短歌形式ではがきなどに書き、友人たちに送ったのが始まりの「はがき歌」。第15回全国コンテストには、全国から1万2499通が寄せられ、3月21日に入選9点・佳作100点が子規記念博物館で表彰されました。今回、入選と市内在住の人の佳作37作品を紹介します。（敬称略）

松山市長賞

友達へ

ふと思う
夕日のさした教室は
どこよりもきっといごこちがいい

松山市　杉野愛

杉野　愛さん（済美平成中3年）

受賞者の声

「ありのままの自分がいる」

受賞した実感はなかったのですが、両親がすごく驚いていたので、すごい賞をとったのかなと思えてうれしいです。

この歌はふと頭に浮かんだ学校でのいつもの情景を書き留めました。

日常のざわめきから開放された放課後の教室。その独特の空間に約束することなく集まった友達。聞いてほしい話や不安に思っていることが自然と口に出る、ありのままの自分でいられる不思議な雰囲気がそこにはあります。

学校生活の中ですごくいごこちがいいと感じるこの時間を、そして友達を大事にしたい、そんな気持ちを歌にしました。

※作品は受賞者直筆

松山市教育長賞

じいちゃんへ
じいちゃんが
どうぶつえんにおったよ
ぼくをじいっとみていた
チンパンジィ
徳島県阿南市　阿地　莞汰

審査員特別賞

息子へ
大学は上を目指せと
言わないが
せめてズボンは
腰まで上げろ
埼玉県三郷市　伊藤　雅之

娘へ
「ほっといて！」
「無視せんといて！」
のやっかいな
あなたのエリアにほふく前進
松山市　山本　久美子

おばあちゃんへ
おばあちゃん
うしのえさやりしてるかな
わたしもこんどは
てつだいたいな
宮崎県日向市　三河　奈菜美

夏鳥のツバメ君へ
夏の朝
青い大空飛んでいた
キミたちが渡ると
芒がゆれる
愛知県名古屋市　岡田　葵

母へ
やめてよね
大ゲンカした翌日の
ごはんに私の好物だすの
松山市　石原　稔

愛媛県知事賞

友へ
「蛇口からみかん
ジュースが出るなんて」
信じてないの？
来て見て飲んで！
松山市　立畠　晴代

正岡子規特別賞

認知症の母へ
「また来るよ」。
サイドミラーが、
遠くします。
おじぎの母を、
ぽつんと置いて。
岩手県盛岡市　藤倉　清光

審査員

河野　裕子（歌人）
坪内　稔典（俳人）
吉田　信保（歌人）
天野　祐吉（コラムニスト）
竹田　美喜（子規記念博物館館長）

佳作（市内在住の人）

恋人へ
メバル煮て箸をそろえて待ってますまさか来ぬとは言わないでしょう？　相原　美紀

妻へ
喧嘩して欠伸しながらお茶飲んで好きで一緒になった妻です　中矢　義光

二人の子供へ
静かな時は食べてる時とねてるときそれでもいいさ元気であれば　宮内　美由紀

カマキリへ
きみはいいな、大きいカマを持っていて、キミみたいに、強くなりたいな　合田　晟祥

金魚へ
金魚すくいすくった後は私の家短い時間一緒にくらそう　田村　莉菜

天国の母へ
鼻のこと低く生んでごめんなあ言ってたあなたもう時効だよ　鈴木　喜久美

とびばこへ
とびばこは、一番キライ、だったけど、なんとか6だんとべたんだよ　田中　佑里菜

母ちゃんへ
盲学校の寮の畳に寝転んどったら母ちゃんの顔が目に浮かぶんよ　浅田　圭子

ランドセルへ
ランドセルなげておとしてもう5年、あと一年もがんばってくれ。　立入　楓子

両親へ
進路先反対された十日後にご飯の最中「いいよ」の一言　八塚　菜未

おじいちゃんへ
「泊まれや」とおじいちゃんの口癖今日はちょっと泊まるかな　玉井　菜美

自分へ
成績が、なんだってんだこの世の中、ちゃんとやってりゃ、いいんじゃね、　上田　透

弓祈祷の年男へ
年男発止と的を射抜きたり猪の木の里に継がれし弓祈祷　井上　由美子

おばあちゃんへ
まっ暗でトイレ行くのもこわいけど星ざはいっぱい見つけられたよ　八木　春香

母へ
宿題をやれといわれてもできんのよ自分の欲望勝っとるけん　加納　良介

父さんへ
こづかいを上げてくれると言いながらもう半年も口だけオヤジ　濱田　真萌

国語表現の先生へ
はがき歌？僕はゼッタイ作りませんよ、だってめんどくさいんだもん。　福本　顕崇

妹へ
妹は本気でかかってくるけれどこっちは手加減大変なんだぞ　大塚　啓祐

家族のみんなへ
つなげてる命のリレーつぎつぎに、つなげているからぼくがいるんだ　井関　諒知

のぼさんへ
のぼさんの食事のメニュー知った孫メタボだねえとたった一言　川内　元子

お椿さんへ
人混みではぐれぬ様にと夫が手をつないでくれるうれしい日です　野中　晃子

千葉の息子へ
絵手紙を見れば性格すぐ判るわしと同じで御人よしかな　河内　義高

友だちへ
釣り堀であじを五ひきも釣りました水平線がきれいに見えた　飯尾　彬仁

おじいちゃんへ
じいちゃんの作る野菜はおいしいね！虫が半分私が半分　栗原　安加里

東北の知人へ
早春の道後歩けばやはらかにみちのくの声バスを降り来る　小谷　正和

メバル釣りが大好きな祖父へ
メバル汁メバルの煮つけに焼きメバルじいちゃんそろそろターゲット変えて！　小森　丈嗣

アリへ
どんなに小さくてもゾウぐらいの大きな命があるんだそうおしえてくれたね　髙橋　優実

自分へ
わすれもの、とりにかえった夕暮れのいつものグランドなぜか切ない　西山　卓也

お問い合わせは、㈳子規記念博物館☎931-5566・FAX934-3416へ